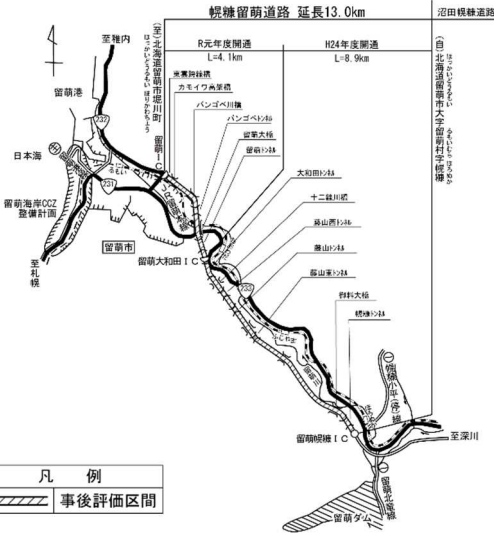


事後評価結果(令和6年度)

担 当 課 : 北海道開発局建設部道路計画課
担当課長名: 村上 睦

事業名	深川・留萌自動車道（一般国道233号） 幌糠留萌道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局				
起終点	自:北海道留萌市大字留萌村字幌糠 至:北海道留萌市堀川町	延長	13.0km						
事業概要									
深川・留萌自動車道は、深川市を起点とし、秩父別町、沼田町、北竜町を経由して留萌市に至る北海道で初めて全線が開通した高規格道路である。									
幌糠留萌道路は、高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び重要港湾留萌港への物流の効率化等の支援を目的とした事業である。									
事業の目的・必要性									
幌糠留萌道路は、高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び重要港湾留萌港への物流の効率化等の支援を目的とした事業である。									
事業概要図									
 幌糠留萌道路  幌糠留萌道路 延長13.0km 凡 例 事後評価区間									
事業の 効果等	事業期間	事業化年度 都市計画決定	H8年度 —	用地着手 工事着手	H12年度 H12年度	供用年 (暫定/完成)	(当初) H27年度/— (実績) R01年度/—	変動	1.2倍
	事業費	計画時 (暫定/完成)	(名目値) 285億円/— (実質値) 282億円/—	実績 (暫定/完成)	(名目値) 480億円/— (実質値) 493億円/—			変動	1.7倍
	交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成)	8,300台/日/—		実績 (暫定/完成)	4,000~4,300台/日/—		変動	48~52%
	旅行速度向上 (供用前現道→供用後現道/当該路線)	42.8 → 50.5/79.7km/h (供用前年次) H22年 (供用後年次) R3年		交通事故減少 (供用前現道→供用後現道/当該路線)	21.8 → 8.7/3.4件/億台km (供用前年次) H21~23年平均値 (供用後年次) R2~4年平均値				
	費用対効果 分析結果 (当初)	B/C 1.4	EIRR —	総費用 266億円 事業費: 238億円 維持管理費: 28億円 更新費: 一億円	総便益 361億円 走行時間短縮便益: 296億円 走行経費減少便益: 48億円 交通事故減少便益: 17億円	基準年 平成17年			
	費用対効果 分析結果 (事後)	B/C 1.02	EIRR 4.1%	総費用 871億円 事業費: 821億円 維持管理費: 51億円 更新費: 一億円	総便益 885億円 走行時間短縮便益: 752億円 走行経費減少便益: 109億円 交通事故減少便益: 24億円	基準年 令和6年			

事業遅延によるコスト増		費用増加額	326億円	便益減少額	140億円
事業遅延の理由		軟弱地盤対策工の追加、インターチェンジの追加、トンネル掘削パターンの変更・補助工法の追加等に伴う事業期間の延伸			
交通量変動の理由		計画時のH11センサスに基づく将来(R12)交通需要予測に対して、発生集中交通量が少なかったため、交通量に変動が生じたものと考えられる。			
客観的評価指標に対応する事後評価項目		事業の整備効果			
		① 主要都市間の利便性向上 ・留萌市と旭川市間の所要時間が約40分短縮されるなど主要都市間の利便性が向上。			
		② 重要港湾の利便性向上 ・留萌港から旭川市への所要時間が短縮され、冬期間においても留萌港から旭川市間の1日2往復の輸送が可能となり、流通の利便性向上に寄与。 ・令和6年4月からの労働時間規制下においても輸送の維持が可能となっており、安定的な輸送に貢献。			
		③ 農産品の流通利便性向上 ・輸送時間が短縮したことで冷蔵トレーラーによる集荷が可能となり、単価の高い道外市場へ販路が拡大。			
		④ 救急搬送の安定性向上 ・留萌市の医療施設から第三次救急医療機関への搬送時間が短縮されるなど、救急搬送の安定性が向上。			
		⑤ 観光地への利便性向上 ・速達性及び定時性の高い周遊ルートが確保され、留萌管内の主要観光地への入込客数が増加。			
		⑥ “音楽合宿のマチ”留萌市への利便性向上 ・速達性及び安定性の高い輸送ルートが確保され、“音楽合宿のマチ”留萌市への利便性が向上し、経済効果が発現。			
その他評価すべきと判断した項目		特になし			
環境変化による事業	環境影響評価に対応する項目	評価対象区間については、環境影響評価実施要綱に基づき、環境影響評価を実施している。予測評価の結果、大気汚染、騒音、植物、動物のいずれも環境保全目標を満足している。 なお、事業実施中及び事業完了後についても、環境への影響は確認されていない。			
	その他評価すべきと判断した項目	特になし			
事業評価監視委員会の意見		当委員会に提出された事後評価結果準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。			
事業を巡る社会経済情勢等の変化		●人口・産業等の社会経済情勢の変化（対象地域：留萌市） ・人口は、事業化当時約30千人(H8)→開通後約19千人(R6)となっている。 （住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査） ・自動車保有台数は、事業化当時約17千台(H8)→開通後約10千台(R6)となっている。 （北海道自動車統計）			
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性		幌糠留萌道路の整備により、高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化、地域間交流の活性化及び重要港湾留萌港への物流効率化等の支援など当初の目的が達成されていることから、今後の事後評価及び改善措置の必要性はないものとする。 なお、今後も利用状況の把握に努めるとともに、利用しやすい道路環境を確保するため、適切な維持管理に取り組んでいく。			

計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性
現道の交通状況や地域計画を鑑み、事業計画の修正を行った上で事業を進めることができた。 今後も、事業の実施においては、関係機関とも綿密に連携し、調査分析を進めていくことが重要である。 また、事業評価手法の見直しの必要性はないものとする。
特記事項
特になし

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。